

「BELIEVE」

BELIEVE
2019
秋号
VOL.70

特集 「外来通院治療センター」の拡張・増床について



「オバケのチャラン」カミジョウ ミカ (エイブルアート・カンパニー所属 <http://www.ableartcom.jp>)

シリーズ 情熱の白衣 医師の素顔⑦ 病理診断科主任部長 嶋田 俊秀

- 食だより／体を温める食べ物 ● お薬ミニ知識／食品がお薬に与える影響
- 『がんサポートチーム』からのお知らせ ● 「かかりつけ医」をもちましょう ● 「スポーツ整形外科」ができました

大阪赤十字病院の理念

わたしたちは
人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さんの権利

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります



外来通院治療センターの拡張・増床について

本年8月1日より拡張・増床した外来通院治療センターを紹介いたします。また、当院のがんゲノム医療への取り組みについてもお知らせいたします。



▶ 外来通院治療センタースタッフ



京都大学医学部卒業後、京都大学医学部附属病院、松江赤十字病院、小倉記念病院などを経て平成27年に当院に着任。平成29年、副院長兼血液内科部長に、平成30年、がん診療センター長兼患者総合支援センター長に就任。平成31年血液内科主任部長に就任。

**副院長・がん診療センター長・
患者総合支援センター長・
血液内科主任部長・輸血部長
今田 和典**

当院は、『がん診療センター』を設置し、高度の専門的治療とともに多職種、多診療科による総合的ながん診療を実践しています。当センター内の外来通院治療センターは、がん化学療法や生物学的製剤の治療を通院で行う施設です。近年、治療件数が増加し、従前の27床では対応が困難となったため、本年8月1日より12床増床して39床に拡張しました。患者さんによりよい治療環境を提供できるものと期待しています。

また、近年、がんゲノム医療が注目されていますが、当院では平成30年4月に『がんゲノム医療連携病院』の認定を受け準備を進めてきました。本年6月にがん遺伝子パネル検査が保険適応となり、早期の診療開始をめざしています。今後も、最適・最善のがん診療を提供できるよう努めてまいります。



**外来通院治療センター長・腫瘍内科部長
津村 剛彦**

京都大学医学部卒業後、関西電力病院、京都大学大学院医学研究科医学部、京都桂病院などを経て平成14年当院に着任。平成26年外来通院治療センター長兼腫瘍内科部長に就任。

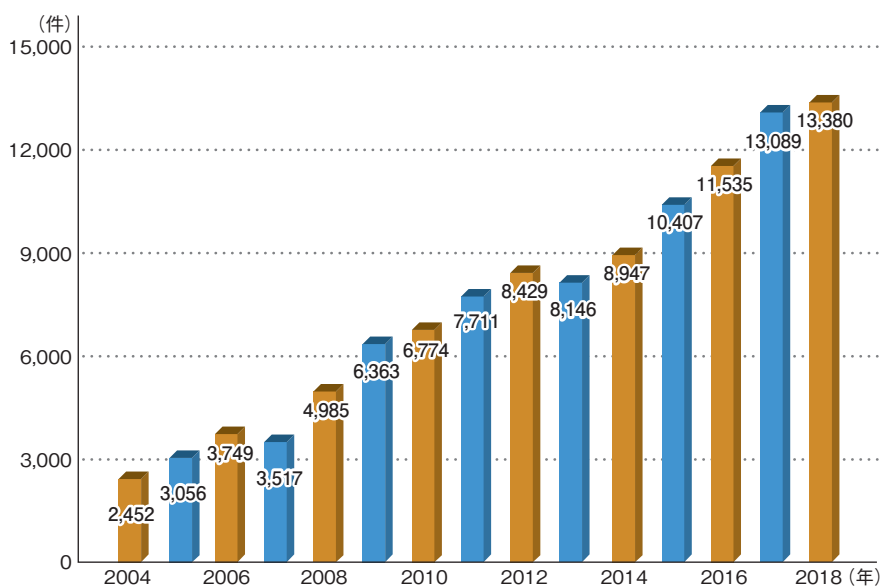
外来通院治療センターは、通院で抗がん剤治療を行う場所です。近年多くの新規抗がん剤が開発、上市（承認された新薬の市場販売が開始されること）され、ステージⅣの進行がんの患者さんの生存期間が徐々に延長しています。それに伴い、外来で抗がん

剤治療を受ける方の数は増加の一途です（図1）。永らく、混雑のため、ご希望の日に予約が取れなかったり、待ち時間が増加したりと、ご迷惑をおかけしてしまいましたが、増床拡張により改善できるものと考えています。

出入口、受付場所は左上記（図2）のように変更されました。待合室はスペースをゆつたりと取り、ソファでリラックスしてお待ちいただけます。また、当センター内に腫瘍内科、血液内科、緩和ケア外来診察室を4室併設しており、患者さんの移動距離や待ち時間の短縮に貢献しています。

当センターでは抗がん剤治療を熟知した抗がん剤の専門医、認定看護師、専門薬剤師が風通しのよい環境で意見を述べ合い、チームとして高い総合力を発揮し、多方面から患者さんを支えています。なお、腫瘍内科外来や外来通院治療センターを直接受診することはできません。各診療科で治療方針を決定後に、各科主治医がベッドの予約をするシステムとなっています。抗がん剤治療を必要とされる方は主治医とご相談の上、安心して当センターをご利用ください。

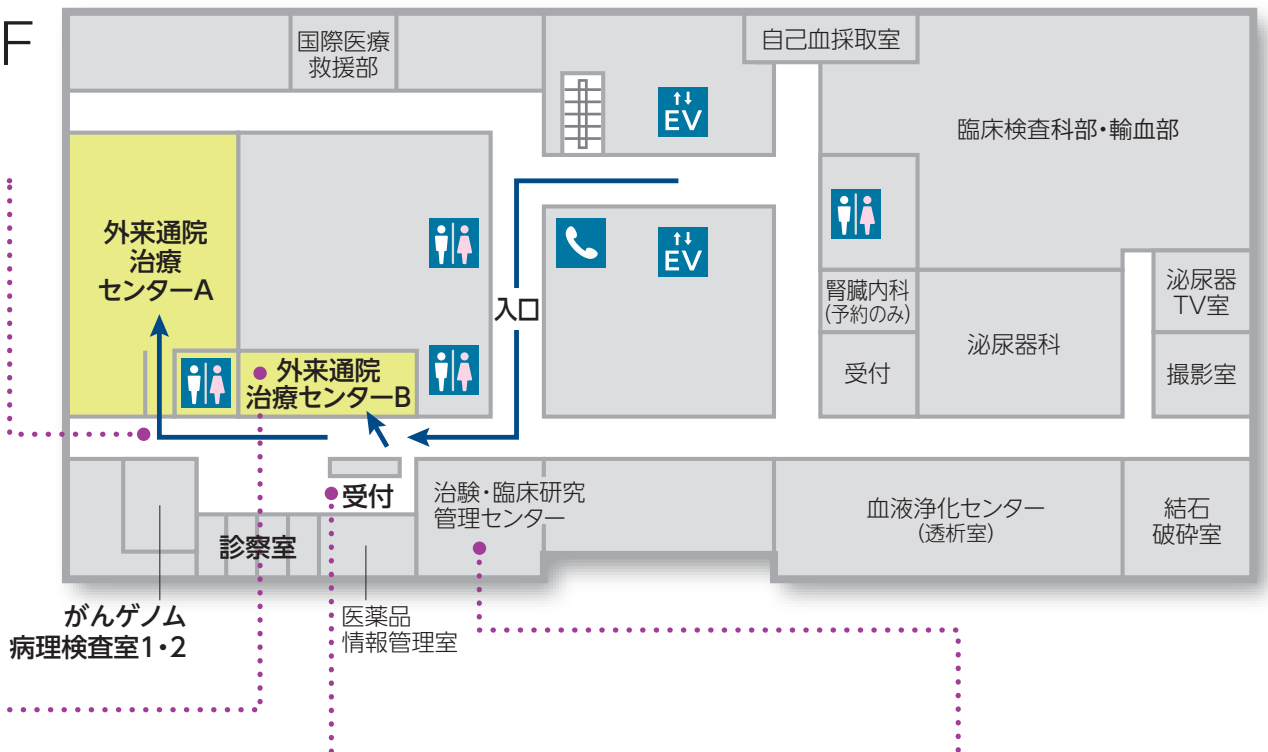
図1 外来通院治療センター治療件数



**看護部 がん化学療法看護認定看護師
小袋 和子**

外来通院治療センターが増床になり、現在、2つの治療室に分かれて治療を行っています。治療中、担当看護師は、患者さんの状態や治療内容などを考慮し、環境に配慮し、安全

図2 4F



今後取り組むゲノム医療

外来通院治療センター長・腫瘍内科部長 津村 剛彦

治験・臨床研究管理センター Clinical Trial and Research Center

がんは細胞の遺伝子に変異し、増殖が止まらなくなって発症します。がん遺伝子パネル検査は、がん細胞に起こっている遺伝子変異を一度に100個以上調べることができる検査です。その遺伝子変異に対して効果が期待できる薬剤や治験*をご提案するのが「がんゲノム医療」です。

当院では、平成30年に『がんゲノム医療連携病院』に認定されたことを受け、今後、『がんゲノム医療中核病院』である京都大学医学部附属病院と連携してゲノム医療を進めてまいります。本年度中には保険診療でパネル検査を開始できるよう鋭意準備中です。ゲノム医療は有望な治療ですが、その反面課題も多く、検査をしても有効な薬剤が見つからない場合や、結果に従い治療しても効果が見られない場合があります。また、自由診療で治療を行う場合、治療費が高額となります。

実施準備が整い次第、当院ホームページなどでお知らせいたします。ご期待ください。

*「薬の候補」が国から「薬」として認められるためには、人が使用したときに効果があり、安全であることが証明されなければなりません。これを証明し、「薬」として国から認めてもらうための試験を「治験」といいます。

大阪赤十字病院 <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>

外来通院治療センターにも担当薬剤師がいます。担当薬剤師は各患者さんの抗がん剤治療の内容(抗がん剤の投与量や副作用対策)を確認し、抗がん剤の用意をします。また、患者さんのもとへ伺い、抗がん剤治療のスケジュールや、可能性のある副作用について説明しています。説明するすべての副作用が起こるわけではありませんが、患者さん自身が早い段階で副作用に気づき医療スタッフに教えていただくことで、副作用を軽度と定める対策を取ることが可能となるため、薬剤師は副作用の説明をしっかりと行います。そして、患者さんが自宅でできる副作用対策についても説明し、少しでも苦痛の少ない抗がん剤治療をめざします。抗がん剤治療により気になる症状がある場合や、お薬のことでお悩みがある場合は気軽に薬剤師に相談してください。

山瀬 大雄 薬剤部 がん専門薬剤師

に治療ができるよう努めています。点滴中にはお話を伺い、患者さんができるだけ苦痛のない状態で療養生活を送れるよう、副作用の確認や対処の方法、生活上での困りごとなどについて支援を行っています。ご家族の方への支援も行っていますので、気持ちのつらさや困っていることなどあれば、いつでもご相談ください。

積み木細工のように、一つひとつを確実に。その積み重ねが、治療、そして医学の進歩という結果を生む。

病理診断科主任部長 嶋田 俊秀

研究者から病理医へ。どちらの世界にも不可欠な、医療に対する真摯な姿勢。

「『病理』と言ったら『料理』と勘違いされるくらい、まだまだ一般的なではないですね。」笑いながらそう話す嶋田医師は、検体(体から採取した細胞など)を観察し、がんなどの病気の進行具合や、病名を診断する病理医だ。「細胞組織を切り出し、それらを顕微鏡で診断しています。ミスは許されません。診断結果は、必ず複数の目で確認します。」嶋田医師が病理の道を志したのは医学部生時代。ところが、その後大学院を経てもそのまま臨床医にはならず、研究者となった。「産婦人科医として開業していた父を

見て、患者さんと直接かかわる、町のお医者さんにも興味を持っていました。ですが、『なぜ病気が起こるのか』、『どういう風に治療をするのか』という疑問が捨てきれず、父に背中を押されたこともあり、病理学研究の道へ進みました。」そして自身で「10年間」というボーダーラインを設け、研究の世界へ身を投じる。その後、現在の病理医へと転身した。研究も病理診断も「積み木細工のような世界」と嶋田医師は言う。「どちらも積み重ねの先に成果が生まれます。病理診断でいうと、顕微鏡を覗く以前の、標本をつくる段階でも、標本をつくる以前の、取り出した臓器を薬剤で処理する段階でも、それぞれにかける時間や薬剤の成分など、すべてを正確にコントロールした結果、正しい診断が得られます。どこかをいい加減にして、最後だけをうまくやっただとしても、その積み木はいずれ崩れてしまう。どちらの世界にも苦しいことはありますが、着実に積み上げていったものが、成果として治療に結びついた瞬間はうれしい、と感じますね。」

▼病理診断室(上)と病理検査組織処理室(下)。ここでさまざまな診断が行われる。



医学は連続性があるから面白い。それを、技術とともに次世代に繋げていきたい。

研究者として、そして病理医として、2つの側面から病理に携わってきた嶋田医師。自身のこれまでを振り返り、今後の目標を掲げてくれた。「自分が若い頃には研究レベルであった話が今、臨床に降りてきているものがあります。今は疑問の事象も、将来的には解明されるかもしれない。そういった連続性があるからこそ、医学は面白いのだと思います。当院でも現在、外来の化学療法室を拡充しており、その一角が、がんの遺伝子異常などを調べられる分子標的治療の『がんゲノム病理検査室』になる予定です。次世代の若い医師たちのためにも、日々技術を磨きながら病院環境も一層整えていきたいですね。」今後の医療の進歩と嶋田医師の活躍に、期待は高まるばかりだ。

香川県生まれ。徳島大学医学部卒業後、京都大学大学院医学研究科・医学部に病理学研究の道へと進む。その後、同大学院で病理学研究者として着任し、医学部生への教育も行う。京都市立病院にて病理医へ転身後、高槻赤十字病院、高松赤十字病院にて勤務し、平成26年に病理診断科部長として当院へ着任。平成31年病理診断科主任部長に就任した。

看護師レポート 70 KOHEI NAKAI

1983年10月6日大阪府生まれ。平成19年大阪赤十字看護専門学校卒業後、当院に就職。主に脳外科、皮膚科、形成外科病棟の看護経験の後、平成26年10月に救急科に配属。脳外科などの病棟での経験を活かしながら、救急外来で運ばれてくる患者さんの看護を担当している。



●看護師 中井 紘平

限られた時間のなかでベストを尽くす。常に同じレベルの看護を提供していきたい。

ある日テレビで見た、緊急時、真っ先に患者さんに処置をする救命救急センターの看護師。そんな姿に憧れて看護師を目指しました。そのなかでも、災害時派遣への参加を希望していたので、大阪赤十字看護専門学校へ入学し、当院へ入職しました。はじめは脳外科や皮膚科などの看護を行う病棟へ配属され、7年後、今の救急科へ異動しました。

救急科での看護は、多いときには1日25件ほど運ばれてくる患者さんのケアや、検査の介助です。患者さんの容態が安定するまでの看護なので、患者さんとは数時間ないしは数日しか、かかわることができません。限られた時間のなかでベストが尽くせるよう、常に事前準備を徹底し、時間のロスや、慌てることのないようにしています。当初希望していた災害時の派遣はまだ実現できていませんが、他のスタッフが派遣されている間、院内でフォローすることも、災害の援助に繋がると考えて取り組んでいます。

今年の7月に、『救急看護認定看護師』の資格を取得しました。救急科ではたくさんのドクター、スタッフとかかわります。私自身、コミュニケーションをうまく図ることが苦手なところもあるので、さまざまなスタッフと、いつ、どんなときでも、連携が取れるように、という思いからでした。緊急時は特にスムーズな連携と伝達が必要だと考えています。

休日は、ジムへ行く日もあれば、先輩との食事や、後輩と出かける。こともあります。病院外での交流も大切にしていますね。



後輩とのキャンプ。病院外でのコミュニケーションも楽しんでいます。

看護師はまだ女性の方が多いですが、「男性だからこそできる」こともあると考えています。今後も、お互いに協力しながら、全体の看護のレベルの底上げをめざしていきたいですね。





食だより

栄養管理課 管理栄養士 福井侑子

体を温める食べ物

夏に猛暑日や熱帯夜が続くと、秋を迎えたときには私たちの体は疲れきっています。夏に一日中冷房の部屋の中にいると、体が冷えたり、ついつい水分を摂り過ぎたりしてしまうことが原因のひとつです。私たちの体は、夏には基礎代謝を下げて、体温が上がりに過ぎないようにするシステムがあります。そのシステムがあるにもかかわらず、体が冷えたり水分を摂り過ぎたりすると、必要以上に体温が下がってしまいます。

秋になると、そんな体温低下、水分過剰からくるいろいろな症状があらわれてきます。下痢、便秘、むくみ、体のだるさ、肩こり、頭痛、めまい、耳鳴りなどがその例です。

暑いときは、冷たい飲み物や食べ物欲しくなりますが、秋に入れば常温もしくは体温以上の物を飲んだり食べたりするようにしましょう。冷たいものは体を冷やします。『日頃から温かいものを食べる、常温の飲み物を飲む』ことを心がけてください。

ポイント 食事には、汁物をプラスして

温かい味噌汁やスープなど、食事の際に汁物を摂るようになりましょう。それだけで、体の内側からじんわり温まります。また、温かい物をゆつくり食べることは、体をリラックスさせ、自律神経のバランスを整えてくれます。忙しいときには、息ついて、ゆつくりを意識して温かい物を食べると、心身ともに温まっていきます。

また、納豆、味噌、ヨーグルト、チーズ、漬物、醤油などの発酵食品には、体を温める作用があります。ただ、汁物や発酵食品には塩分が多く含まれているものもあるので、摂り過ぎは禁物です。

ポイント 野菜は色で判断できます

野菜などは色で判断することができます。赤やオレンジなどの暖色系の食べ物は、体を温める作用があります。人参、南瓜、玉ねぎ、蓮根、ごぼう、じゃがいも、自然薯、玄米、鮭は、この効果が期待できます。逆に、白、青、緑などの寒色系の食べ物は、体を冷やす作用があるといわれています。きゅうり、キャベツ、レタス、なす、ほうれん草、小松菜、筍、梨、スイカ、メロン、パイナップル、アサリなどは、寒い季節は控えるようにしてもいいかもしれませんね。

野菜やきのこ類は和風、洋風、中華などどんな汁物にも合いますし、鮭や鱈などの魚類は牛乳を入れたクリームスープなどにするのがおすすめです。体を温める食べ物と冷やす食べ物を区別して上手に食事に取り入れて、冷え性対策をしましょう。



お薬ニ知識

薬剤部 薬剤師 長谷川 翼



食品がお薬に与える影響

お薬と食品(飲み物、嗜好品を含む)が個々では問題ない場合でも、組み合わせによってはよくない影響が出る可能性があります。今回は、お薬を服用する際に注意しなければならない食品・飲み物について紹介します。

■ グレープフルーツ

お薬との併用に注意しなければならない食品として有名なのがグレープフルーツです。グレープフルーツはお薬の吸収量を増加させる働きを持っています。そのため、日常的にグレープフルーツを摂取されている方は、お薬の効果が強く出たり、副作用症状が引き起こされたりする可能性があります。一部の高血圧や脂質異常症のお薬、アレルギーのお薬などはこの影響を受けやすいため、注意が必要です。

■ 牛乳

お薬の多くは胃酸で溶け、小腸で吸収されます。牛乳は胃酸の働きを弱める作用があり、お薬とともに摂取すると、お薬が胃で溶けるのを妨げてしまい、結果としてお薬の吸収率が低下してしまう可能性があります。牛乳は飲んだ後、1時間程度で胃酸の働きが回復することが報告されていますので、牛乳とお薬の服用には1時間以上時間を空けることをおすすめします。また、一部の抗生物質は牛乳に含まれるカルシウムと結合し、吸収されにくい化合物へと変化します。牛乳以外にも硬水や青汁、抹茶にもカルシウムが多く含まれているため、注意が必要です。

■ 濃縮還元ジュース

近年、濃縮還元ジュースを用いてお薬を飲むことにより、そのお薬の吸収が遅れる(吸収されにくくなる)という報告もあります。水に溶けたお薬は浸透圧の高い方から低い方に移動する性質を持っています。濃縮還元ジュースは体液と比較して浸透圧が高いため、お薬が体液の方向に移動する(吸収される)のを邪魔してしまふことが原因と考えられています。



今回紹介した内容以外にも、アルコール、カフェイン、喫煙もお薬の治療効果に影響を及ぼすことが知られています。

お薬の飲み合わせについて、疑問などありましたら薬剤師にご相談ください。

『看護師のためのエンド・オブ・ライフ・ケア研修』を行いました

看護部 がん看護専門看護師 小木曾 照子

がん相談支援センター 当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。
TEL:06(6774)5152 FAX:06(6774)5126 syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

研修当日は、当院の看護師と、近隣の病院や訪問看護師などを含む計33名の看護師が受講しました。エンド・オブ・ライフにおける痛みや症状マネジメント、倫理的問題、ロールプレイや事例検討などを行いながら包括的に学習することができるプログラム(End-of-Life

について学びました。研修当日は、当院の看護師と、近隣の病院や訪問看護師などを含む計33名の看護師が受講しました。エンド・オブ・ライフにおける痛みや症状マネジメント、倫理的問題、ロールプレイや事例検討などを行いながら包括的に学習することができるプログラム(End-of-Life



▲研修の様子

に寄り添い、よりよいケアを行いたいと思つています。もし、「痛みやつらい症状がある」、「これからどのように過ごしたいのか悩んでいる」、「今後の見通しが不安」など、感じている方は、まずは看護師にお声かけください。

非常に多くなつています。このような状況において、患者さんご家族にとつて、質の高いエンド・オブ・ライフを送つていただくためにどのような看護を行うかについて学びました。

問題に直面することが非常に多くなつています。このような状況において、患者さんご家族にとつて、質の高いエンド・オブ・ライフを送つていただくためにどのような看護を行うかについて学びました。

この研修は今回で3回目となり、受講者総数は105名となりました。まだまだ少ない人数かと思われながらも、今後もこのプログラムを学んだ受講者が質の高いエンド・オブ・ライフケアを実践し、ともに働くチームメンバーに影響を与えていくことで、患者さんやご家族のQOL(クオリティ・オブ・ライフ・人生の質)の向上に少しでも寄与できたらと思つています。

令和元年9月14日・15日に、大阪赤十字病院で『看護師のためのエンド・オブ・ライフ・ケア研修』を行いました。『エンド・オブ・ライフ・ケア』とは、病いや老いなどにより、人が人生を終える時期に必要なとされるケアと定義されています。これは、患者家族、医療者が死を意識した頃から始まり、疾患を限定せず、高齢者も対象になります。

近年、日本では医療の進歩が目覚ましく、さまざまな集学的治療が行われています。一方で、高齢多死社会や認知症患者の増加など、患者さんの治療や療養に関する意思決定やケアに関する倫理的問題に直面することが非常に多くなつています。このような状況において、患者さんご家族にとつて、質の高いエンド・オブ・ライフを送つていただくためにどのような看護を行うかについて学びました。

Nursing Education Consortium Japan:ELNEC(エヌエック)を使用し学習しました。受講者からは、「痛みやさまざまな症状の緩和に役立てたい」、「患者さんに寄り添い、今後どのように過ごしたいか意向を確認し一緒に考えていきたい」、「高齢者の特徴が理解できた。心身の微かなサインをキャッチできるよう丁寧にかかわりたい」、「チームメンバーがよりよい看護ができるよう、勉強会や話し合いを毎月1回開催していきたい」といった感想が聞かれ、研修の満足度も高く、明日からの看護実践に対する具体的な目標を立案して終了しました。

登録医紹介



『かかりつけ医』をもちましょう

病院と診療所がその機能や役割を分担しながら、患者さんに適切な医療を提供することが求められています。自分のことをよく知っていて、ちょっとした病気やケガの診察や相談ができる『かかりつけ医』をもちましょう。

かかりつけ医

日ごろの健康管理
専門的な治療が
必要なら当院へ紹介

紹介

逆紹介

大阪赤十字病院

高度医療・専門医療
症状が安定したら再び
「かかりつけ医」へ

公益財団法人 聖バルナバ病院

- ◆ 院長/常規 泰平 ◆ 診療科/産科、婦人科、小児科
- ◆ 住所/大阪市天王寺区細工谷1-3-18
- ◆ 電話/06-6779-1600
- ◆ 診療時間 ※日曜・祝日は休診



エントランスロビー

外来	受付時間	診察時間	月	火	水	木	金	土
産科・婦人科	8:30~11:30	9:00~	○	○	○	○	○	○
	11:30~15:30	13:30~	○	○	○	△	○	○
小児科	病児診察	8:30~11:30	9:00~	○	○	○	○	△
	乳児健診(予約制)	8:30~11:30	9:00~	○	○	○	○	○
		12:30~15:30	13:00~	○	1ヵ月	1ヵ月	△	○

▶小児科・予防接種(予約制)の受付は当サイト(<http://www.barnaba.or.jp>)をご覧ください。

特長 当院は1873年(明治6年)に開院された日本最古の産科・小児科病院です。助産学院も併設しており「助産師の養成・教育」を行っています。常に新しい産科学・小児科学にもとづいた妊婦管理、分娩、新生児管理、産褥管理を行い、安心して出産していただくための環境づくりとサポートを心がけています。妊娠中は『おうちご飯を大切に、普段着の食生活を考える』身体にやさしい食事を用意しています。院内薬局では妊娠中や授乳中でも服用できるお薬やサプリメントの相談を受け付けています。

地域の皆さまへ 開院して以来、約150年、世代を超えて多くの出産をお任せいただいています。4D超音波や遺伝カウンセリング外来といった新しい医療も取り入れながら、同伴分娩の受け入れや母乳哺育への援助、小児科外来では、1歳まで1ヵ月ごとのきめ細かな健診を行い、育児指導にも重点をおいています。妊娠、出産から子育てと、その後までを見守る「母と子と女性のための病院」です。当院を訪れるすべての方々に安心と安全を重視した周産期医療を提供しています。

豊川医院

- ◆ 院長/豊川 秀吉
- ◆ 診療科/内科、外科
- ◆ 施設基準/在宅緩和ケア充実診療所
- ◆ 住所/大阪市天王寺区東高津町8-24 MYYビル1F
- ◆ 電話/06-4303-3819
- ◆ 訪問診療/有 ◆ 往診/有(要相談)
- ◆ 診療時間

外来	月	火	水	木	金	土
午前(9:00~12:30)	○	○	○	○	○	○
午後(17:00~19:15)	○	○	△	○	○	△

※日曜、祝日は休診

豊川院長



特長 当院は大阪赤十字病院の近くにある診療所です。地域のかかりつけ医として、患者さんの健康管理をはじめとした一般内科、外科診療を行っています。必要に応じて高次専門医療機関へ紹介させていただき、患者さんを取り巻く多職種連携のチームリーダーとして、病診、診診連携、多職種連携を大切にしています。また、当院は緩和ケアにも力を入れており、通院が困難な患者さんに在宅医療を行っています。

地域の皆さまへ 当院は大阪赤十字病院の連携登録医です。大阪赤十字病院で治療を受けながらも、日々の健康管理や支持療法、緩和ケアを当院が担当させていただくこともできます。また、初診から最期までかかわることができるよう、当院の医師と看護師による訪問診療・看護を行い、ご自宅での看取りも可能な体制を整えています。現在、訪問診療可能な地域は、天王寺区、中央区、東成区、生野区の一部です。

▼「アピアランスケア相談会」の案内リーフレット

がん患者さんとその家族のための アピアランスケア相談会

セルフケア用品を直接手にとって確認してみませんか…

参加料・体験料
無料

【日時】 毎週月曜日 AM11:00~PM15:00
【会場】 大阪赤十字病院 本館2F 患者情報室前
【対象】 すべてのがん患者さん及び家族

- ＊ 脱毛等の悩み相談・ウィッグの試着
- ＊ インナー・下着の紹介や試着
- ＊ アロマハンドマッサージ
- ＊ 爪のお手入れ方法やネイルの紹介・体験
- ＊ 肌トラブルやメイク用品の紹介・体験
- ＊ オーラルケア

※週によって業者は変わります。お気軽にお立ち寄りください。

部署 大阪赤十字病院 がん相談支援センター(本館2F)
【お問い合わせ】 TEL 06-6774-5152(直通)
時間 平日 AM8:30~PM5:00



「アピアランスケア相談会」を 開催しています

「抗がん剤治療の副作用をもつ患者のQOL向上をめざして」

がん相談支援センター(入退院支援課)
医療ソーシャルワーカー 野村 美奈子

「アピアランスケア」という言葉をご存知ですか? アピアランスとは「外見」という意味です。抗がん剤などのがん治療により、頭髪や眉毛などの脱毛、肌の色や爪の変化など、外見に変化が起ることがあります。外見が変化することで、周りの人からどう思われているかが気になり、人とかかわることを避けたり、外出をしなくなったりと、今までどおりの生活を送りにくくなる方がいます。そこで当院では「アピアランスケア相談会」として、ウィッグなどのセルフケア用品の無料相談や体験会を開催することにより、外見の変化に困っている患者さんのケアに少しでも力になることができると考えています。

アピアランス相談会は、毎週月曜日午前11時から午後3時まで本館2階・患者情報室前で行っています。業者の協力により、ウィッグ・下着・ネイル化粧品などの展示とともに、無料相談・商品説明・試着などを行っています。今年8月から始まり、患者さんからも好評をいただいています。その場で販売を行うことはありません。また、男女・年齢も問いません。ぜひ、安心してお気軽にお越しいただければと思います。

アピアランスケア相談会担当業者の予定は、院内に掲示しているポスターでご確認ください。



NEW! 「スポーツ整形外科」ができました

令和元年10月より開設!

整形外科/スポーツ整形外科 副部長 鈴木 隆



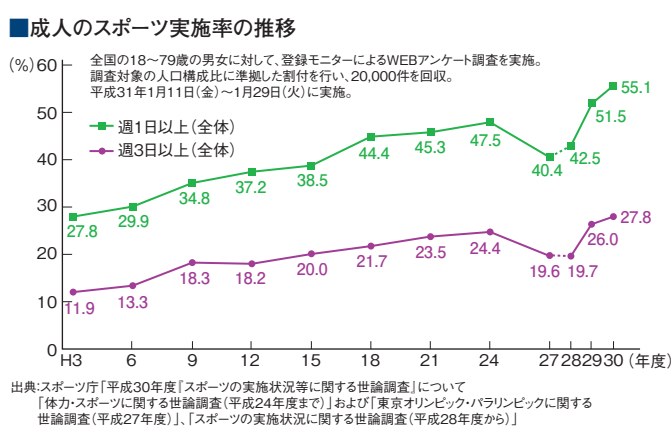
▼当科スタッフ

この度、当院におきまして、「スポーツ整形外科」を10月より開設することになりました。近年、スポーツを行う人口層の多様化がいわれ、老若男女を問わずスポーツに取り組む人々が増加しています。また、設備や環境の広まりとともに、一般の人々も競技レベルでスポーツを行うことが多くなっています。これらにより、スポーツによる外傷・障害も増加・多様化しており、その治療や予防に対する専門的な医療のニーズが高まっています。

当院におきましてはこれまで、整形外科のなかでスポーツ外来という専門外来を設け、スポーツ外傷・障害の患者さんの肩・膝関節を中心とした関節鏡手術を多数行ってきました。今後、よりニーズが高まるこの分野を拡充し、また患者さんにとっても分かりやすいネーミングが必要と考え、今回「スポーツ整形外科」の開設に至りました。

当科の開設により、専門的な医療のニーズが必要な患者さんに、当院を選択していただきやすくなるとともに、当院と近隣のクリニックなどの医療連携をよりスムーズにしていきたいと考えています。また、当院の「スポーツ整形外科」は、整形外科の「デイビジョン(部門)」としてのスタートとなりますが、当院が大阪府内・関西地域のスポーツ整形外科・関節鏡手術分野の中核病院となるための第一歩にしたいと考えています。

将来的には、リハビリテーションを含めた予防医学への本格的な取り組み、近隣のスポーツ施設・団体との連携などを実行し、「スポーツ整形外科・関節鏡手術センター」の開設を目標としています。



Event 〳令和元年度 院内文化祭、を開催します

当院では毎年、院内で文化祭を開催しています。文化祭では、当院の職員や小児科の入院児童さん、大手前整肢学園入園者の方々が持ち寄った絵画や写真、手芸などの作品を展示しています。また、来場者の皆さまには気に入った作品への投票を行っています。本年は下記の日程で催しますので、ぜひご来場ください。

- ◆日 時／令和元年11月19日(火)～11月22日(金)
9:00～17:00(最終日は13:00まで)
- ◆場 所／大阪赤十字病院 本館4階 会議室4
(※場所に変更になる場合があります。)



昨年の文化祭で
展示された作品



Seminar 〳第10回 糖尿病オープン教室、を開催します

毎年恒例の糖尿病オープン教室を今年も開催します。一般の方を対象に無料で行っていますので、ぜひこの機会にご参加ください。

詳しくは院内に掲示しているポスターをご覧ください。

- ◆日 時／令和元年11月13日(水)
13:30～15:30
- ◆場 所／大阪赤十字病院
本館1階
正面玄関ロビー
- ◆参加費／無料

第10回 糖尿病オープン教室

日時 2019年11月13日(水) 13:30～15:30

会場 大阪赤十字病院
本館1階 正面玄関ロビー

動きやすい服装でお越しください

参加費 無料

▼13:30～
運動するための体づくりを食事面から考える
栄養管理課 堂川 冴子 管理栄養士 日本糖尿病療養指導士

▼14:00～
糖尿病とサルコペニアについて
糖尿病・内分泌内科 金井 有吾 日本内科学会総合内科専門医 日本糖尿病学会専門医

サルコペニアとは…
加齢や疾患により筋肉量が減少し全身の筋力低下や身体機能の低下が起こること

▼14:30～
よろこびの歌体操 企画・制作 公益社団法人日本糖尿病協会
医師・糖尿病療養指導士と一緒に
元気づく体操しましょう！

よろこびの歌体操 検索
体操の詳細はWEBで閲覧可能です

▼15:00～
健康生活相談

お問い合わせ 医療支援課 大阪赤十字病院 2階8番窓口(8:30～17:00)
TEL:06-6774-5151

動きやすい服装で
お越しください

ポスター

News 〳セプテンバーコンサート、を開催しました

9月28日(土)、恒例のセプテンバーコンサートを開催しました。当日は残暑のなか、多くの方にご来場いただきました。



今回は布施混声合唱団による歌とピアノ演奏が披露されました。布施混声合唱団は布施高校音楽部のOB・OGが中心となって創立され、多方面で活躍しています。

この日のコンサートは、イングランド民謡や、日本の懐かしい曲、新しい曲が指揮者によりエピソードを交えて紹介され、19人の力強く、やさしい歌声が場内に響きわたりました。



一部の曲は来場者の皆さまと一緒に歌うなど、素敵な時間を過ごしていただきました。

人事異動情報 (6月30日～10月1日)

- 採用** (7月 1日付) ●橋本 将(消化器外科部・医長)
- 濱口 雄平(消化器外科部・医師)
 - 田宮 良輔(眼科部・専攻医)
- (9月 1日付) ●橋本 恭弘(消化器外科部・医師)
- (10月1日付) ●野中 道仁(心臓血管外科部・医長)
- 山口 優太(血液内科部・専攻医)
 - 青柳 貴之(呼吸器内科部・専攻医)
 - 山元 真也(脳神経外科部・専攻医)
- 退職** (6月30日付) ●堀口 聡士(脳神経外科部・副部長)
- (8月12日付) ●内藤 拓人(新生児・未熟児科部・医師)
- (9月30日付) ●片岡 浩之(大手前整肢学園・医務部長)
- 山田 知佳(血液内科部・専攻医)
 - 岡崎 航也(呼吸器内科部・専攻医)
 - 元家 亮太(脳神経外科部・専攻医)

編集後記

10月初旬は異例の暑さとなりましたが、すっかり秋めいてきましたね。今回は「スポーツ整形外科」の記事のなかで年々スポーツを実施する人が増えていると紹介しましたが、皆さまは何かスポーツをされていますか？ 私はランニングが好きなのですが、最近は忙しくてなかなかできていません。今年は「スポーツの秋」にできたらいいなと思っています。食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、皆さまはどんな秋を過ごされますか？ (Y.N)

病院のご案内

- 受付時間(月～金) (診療開始は午前8:45からです)
初診/月曜日～金曜日 8:30～11:30 再診/月曜日～金曜日 8:00～11:45
- 休診日 土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日
- 診察券 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 (病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護師にご相談ください)
平日/14:00～19:00 休診日/10:00～12:00、14:00～19:00
小児病棟(平日・休診日とも)/14:00～19:00
- 保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。
また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

当院は
敷地内全面禁煙です
当院は、敷地内全面禁煙を
実施しています。
ご理解とご協力をお願いします。



大阪赤十字病院

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30 令和元年10月発行

■お問い合わせ
TEL:06-6774-5111 (代表)

大阪赤十字病院 <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>
赤十字全般 <http://www.jrc.or.jp/>

